

じゃおクラブ臨時総会実施報告

じゃおクラブ臨時総会を開催しました

1月23日(日)13:30～ 臨時総会の「議案説明会」をオンラインで開催いたしました。参加者は24名で大澤委員(代表)の議事進行に従い、「第1号議案 じゃおクラブ本部の運営・活動の見直しについて」は大出委員(総会担当)から、「第2号議案 第1号議案に関連した会計関連の改定」は石井委員(会計担当)からそれぞれ説明がありました。その後、質疑応答の時間がありましたが、今回の議案の内容については、事前に地域じゃおにおいて検討を行っていただいておりますので、2、3の質問にお答えして40分ほどで閉会しました。

1月26日に議決権行使を締め切り、集計した結果は下表のようになりました。

この結果を反映して2022年度の活動計画・予算を5月の通常総会に向けて作成していきます。

臨時総会への会員各位のご協力ありがとうございました。

議決権行使結果

議決投票総数 68 件 (投票率 53.1%)

議案	議案名	賛成	反対	白票
第1号	じゃおクラブ本部の運営・活動の見直しについて			
①	本部主催の活動の縮小について	64	3	1
②	通常総会の開催方法・議案書について	68	0	0
③	オルタ館の執務スペースの廃止について	66	2	0
④	本部から地域じゃおへの移管する業務について	67	1	0
第2号	第1号議案に関連した会計関連の改定			
①	会費の改定および会計に関する規約の改訂	67	0	1
②	繰越金の取り扱い	67	1	0

報告者：大出 佳和(総会担当)

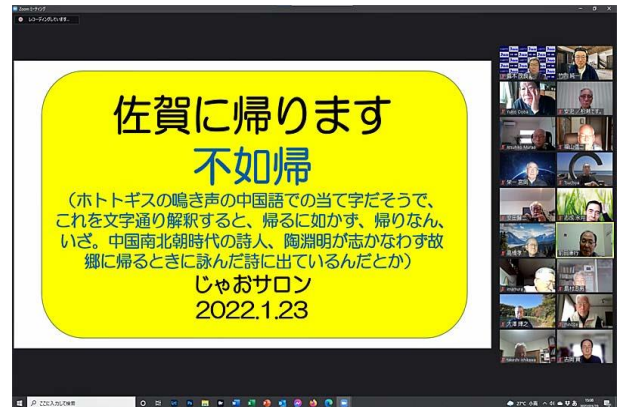
2022年1月じゃおサロン報告

1月23日(日)15:00から前田康行さん(じゃお県央会員)に「ふるさとに帰る」^{ほととぎす}不如帰というテーマで、講演していただきました。Zoomによるオンライン開催で24名の方が参加しました。

前田様は、2000年10月に「じゃおクラブ」に入会して22年。江戸歴史探訪、農園での野菜作り、三味線演奏等、幅広く活躍されております。

<講演概要>

定年退職前から、その後どうするかと色々考えて加藤仁さんや楠木新さんの本など、いわゆる定年本をたくさん読んだが、自分にはピンとこない。何かやるにしてもお金のかかることはあまりしたくない。それでも色々挑戦をしてみた、陶芸、木工、街角ガイド養成講座、樹木医療養成講座、楽器などなど。でも何をやってもしっくりこなくて、その中でかろうじて続けているのが三味線、江戸歴史探訪、農園での野菜作りです。



定年後の生活をどうするかについてずっと悩み続けていたそんな折一番しっくり来たのが勢古浩爾さんの「定年バカ」。定年後は「何もしない自由」がある、というのがいいなあ。ただ実際定年を迎えて見ると、何もしないというのはちと辛い、落ち着かない。なんせ、九州の百姓の末裔として「働かざる者食うべからず」と耳に胼胝が出来るほど聞かされて育ちましたからリタイア後5年も経つのに、今でも平日の昼間街に出ると後ろめたさを感じていた。

そういった時期を経て、今思い描いているのが自給自足生活。電気の自給は設備投資にお金がかかりそうですけど、火は炭を作るとか、水は井戸を掘るなどで自給出来るかなあと。米作りは難しそうだけど野菜は自分で作れそう、湘南の農園で野菜作りを学んでるし。

自給自足生活で生きて行こうとすると、やらざるをえないことがたくさんあるわけで、視点を変えれば日々やることがあると言うこと、そこが肝なんじゃなかるうか

問題はその自給自足をどこで実現させるかです。そうこうするうちに自然と故郷佐賀が浮かんできました。実は自分は生粋の佐賀の人間なんです。祖父から聞いた話では、曾祖父が明治維新の折に、時代が変わったのにこんな地べた這いずり回るような百姓なんかやってられるかと家を飛び出したんだとか。で、そこから考えられるのは、江戸時代の終わりに佐賀の百姓だったということは、我が祖先はおそらくずっと佐賀で百姓をやったはずですよ。

ということで、自分の人生をどこで終えるかを考える時に佐賀が出てきたのは、どうも先祖が呼んでいるのではないか、血が呼ぶというか。

^{ほととぎす}不如帰(帰るに如かず=帰りなん、いざ)という言葉は、中国の詩人、陶淵明の詩の中に出てくるのですが、中央に出てきた陶淵明が志ならず故郷へ帰るときの想いを詠んだ詩です。今の私の心境のもっとも近い言葉かなあと解釈して使いました。

佐賀に帰るに当たり、有楽町駅前にある東京交通会館8階に「ふるさと回帰支援センター」があり何度か相談にいき、情報のやり取りをしていた結果、自分の専門分野の就職先が見つかり、いま住む所を探しているところです。(以上講演概要)

前田様は、春には引越せられますが、佐賀での生活、ご活躍を期待しています。身体に気を付けて下さい。

(県央 福山 信二 記)

事務局だより

1. 会員動向

1月1日現在会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
37	31	32	28	128名（Eグループ会員：114名）

2. 運営委員会報告

1月23日(日) Zoom によるオンライン形式で実施しました。

協議事項とその結果の概要は以下の通りです。詳細は2022年1月運営委員会議事録を参照ください。

- 1) 第31回通常総会の開催方法と議案書作成作業について（大出委員）・・・結論 異議なし
例年通り5月第2週の日曜日（5/8）に開催する前提で「総会議案書作成スケジュール」と「議案書の構成/執筆担当」が提案された。

関連して、以下の課題について今後検討する。

- 「生活クラブ関連行事」については、今回も率川さんに執筆をお願いするが、来年度以降は新たに担当を決める必要がある。
- 通常開催にするかオンライン開催にするか次回運営委員会（3/27）までに決定する。

- 2) 会員だより継続の可否について（今村委員）・・・結論 継続する

各地域の代表から意見が出され協議した結果、3月以降も現在と同様名簿順に執筆予定者を選定し依頼することに決定した。なお、じゃおニュース全体の構成・内容等については新年度になってから別にプロジェクトチームを作り検討する。

- 3) 七久保青壮年部との交流について（竹内委員）・・・結論 今回は本部では対応せず、宮松会員に任せる

県央の宮松会員から竹内委員宛にメールがあり、長野県七久保の竹澤氏から御柱祭の誘いがあったが、どのように対応すべきか本部で決めて欲しいということだった。

協議した結果、この件に関しては本部では対応せず、宮松会員に任せることになった。ただし、この団体とは以前から交流があったので、今後継続するか否かは、宮松会員を通じて先方の意向を確認してもらおうと共に、じゃおクラブとして交流を継続するか否かを今後の運営委員会で検討する。

- 4) その他

- 事務所の退去に伴うオルタ館の倉庫内の荷物の整理について、ベイサイドにて再度現状確認した後、処分等について運営委員にメールで周知する。
- 事務所の退去届は臨時総会で可決後（1/26）、大澤代表が速やかに提出する。

3. 次回の運営委員会

日時：2022年3月27日（日）10:00～12:00（オンライン開催）

議長：石井委員、書記：今村委員

和田一族の一部は土佐の山間部へ逃げ延びる

県央 和田 大志郎

60歳を過ぎて四国から関東へ移り住み、12年前、ご縁あってじゃおクラブに入会しました。入会当初はじゃおサロンにほぼ毎月通いましたが、仕事の都合でその後はご無沙汰状態になっています。しかし、ネットで見ることができるじゃおニュースや議事録等の情報は大変参考になり、楽しませて頂いています。

さて、今年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は初回総合視聴率が25.8%の好発進だそうです。小生の出身地は高知市内から北側へひと山超えた山間部(小学校校歌に高知城の北三里と歌われている)、さらに北側へひと山超えると吉野川上流の四国最大の早明浦ダムの地点に着く。そこは鎌倉時代の和田合戦において生き残った和田一族の一部が逃げ延びて来た地、和田の地名や和田神社が残っている。

和田一族の首領和田義盛(三浦半島の豪族)は、平家追討など源頼朝の全国制覇に大いに貢献し鎌倉幕府の武家集団トップになったが頼朝没後の1213年、幕府内でライバル関係にあった大河ドラマの主人公北条義時が仕組んだライバル排除のための和田合戦に敗れ討死した。和田側約1000人が討死、義盛をはじめ主要メンバー200人余りの首が鎌倉市由比ヶ浜に集められたとのこと。江ノ電和田塚駅の近くに「和田一族戦没地」の碑がある。北条義時はこれにより鎌倉幕府最高権力者の地位を揺るぎないものにしたが、義時や政子没後の1333年、討幕派新田義貞の鎌倉攻めによって北条(鎌倉北条)は滅亡する。

大河ドラマの何回目かで放映されるであろう和田合戦において、生き残った和田一族は鎌倉の地を追われ、一部は西日本へ逃げた。瀬戸内海側の現香川県観音寺市豊浜町の和田浜周辺に一旦落ち着いた。しかし数年後に北条側に知られ、2度攻め込まれたため、さらに土佐(高知県)の山間部の現早明浦ダム地点へ逃げた。土佐は四国山脈で隔てられた僻地のため、当時は中央行政の支配が及ぶ知行国になっていなかった。厳しい自然環境の中、焼き畑から開墾しその地を和田村と称し住み始め、神社を祀り、周辺へも開墾地を広げて行った。和田村から高知市側へひと山超えた山の中腹に住んでいた小生の先祖達は、開墾地を広げて行く過程で派生した和田一族の流れをくむ者と思われる。小生は以前、山腹にあった江戸時代後期の和田姓の先祖墓を墓守のために役場が置かれている集落へ移したことがあるが、和田一族に繋がる古い家系図は見つかっていない。

当地及び周辺には、あそこの家は平家、こちらは源氏(和田一族)に繋がるといわれる家が存在する。屋島や壇ノ浦での源平合戦に敗れた平家の一部が身を隠すために先に来たようである。また、小生の生まれた所から山を降りた小川沿いの場所に、江戸時代前期創建とされる春宮神社(登録有形文化財)がある。病弱だったためこの地で生涯を終えたといわれる後水尾天皇(在位1611年～1629年)の皇女春宮姫を祀っていると伝えられている。昔は多くの人が居たものと思われるが、産業のない山間部ゆえに人々はその後都会へ出て、今では多くの日本の山間部同様人口が大幅に減少し「ポツンと一軒家」的な風情に向かっている。時代の変遷を感じる。

芋焼酎の話

ベイサイド 横山 晶

鹿児島出身の人から芋焼酎の飲み方について教えて頂いたことについてお話をいたします。

鹿児島では、焼酎で晩酌をすることを{ダレヤメ}と言います。{ダレ}とは疲れ、{ヤメ}は止める、という意味で一日の労働の疲れを癒し明日への活力を養う意味で、焼酎は健康的な酒とされております。

また、焼酎は蒸留酒でありながら低濃度でかつ温めて飲まれ、このお湯割の飲み方は焼酎の独断場で薩摩から日本全土に普及していきました。

芋焼酎の飲み方は、前日から水と焼酎を5対5(12.5度)に割っておいて水と焼酎をなじませておき、電子レンジ等人肌程度で飲む焼酎はまた格別です。{黒ジョカ}という酒器に水で割った焼酎を入れ火鉢や囲戸裏端に置いて余熱で時間をかけ欄をつけ、酒器の中で対流が起こり焼酎と水が良くなじみコクとまろやかさが出て、甘味が口の中に広がり欄のつけ方によって焼酎の味は驚くほど変わります。

良い芋焼酎を見分ける方法は、非常に薄いお湯割を作っても芋の味がしっかり残っているのが良い焼酎だそうです。

芋焼酎の主成分はエタノールのみで、お酒の度数はこのエタノールで決められているそうです。最後に二日酔い防止策について、まず酒宴が始まると同時に大きな緑茶入り急須を横に置き、焼酎と緑茶を交互に飲むのが二日酔いにならない秘訣です。冷水を良く飲む人がいますが、人間の内臓は船の内燃機関と同じで冷やすと止まります。緑茶はビタミンCの宝庫です。美味しい焼酎で楽しい毎日をお過ごしください。

昨日今日

多摩・田園 山脇 哲郎

2022年は新春元旦から黒星スタート、捉えようによっては2021年大取りのチョンボとも言えるが、年賀状にまつわるお話です。本人は笑って済ませると思っているけれど・・・事によると???

例年12月は年に一度のフォトショップとイラストレーター(PCの写真編集とお絵描きドローソフト)の出番である。年々操作に戸惑いが出てきてはいたが、今回は何だか様子が違い殊の外てこずった。かれこれ10年くらい前から更新を放棄してしまったことで新しいOSに対応しない部分があるらしい。更に悪いことにMacとWindowsを交互に使っている事が一層ややこしくしている。悪いことは重なるもので、次はプリンターである。このところコロナで中断を余儀なくされているが、お祭りで子供たちにCDこまを製作して提供しており、インク代が大変でサードパーティの代替え品にしていた。心配していた通りインク詰まりに見舞われ泥縄で修理する。内容は修理と言うより保守程度のことではあるが顔料系のインクヘッドには一寸手間取った。ほんとに癪に障るが次はインク切れと来た。急いでアマゾンに発注するも時間的に翌日入手は叶わなかった。当のプリンターは葉書の紙送り機能がウイークで過去に何度も団子状に排出され多くの無駄に悩まされていたので今回から私製葉書を使用していた。

遅れに遅れ、「大体年賀の挨拶なんて元旦にすべきことだ」等と自分を正当化しながら近くのコンビニのポストへ・・・。連日の夜更かしにこの日ばかりは僅かなアルコールの労いが効いて私的にやっと年明け、やれやれである。後は松の内、受け取った賀状に思いを馳せながら恒例のオペラ鑑賞三昧で過ごす。演目も極めて明るく”蝙蝠、メリーウィドウ、魔笛”もまた恒例である。

そろそろ正月気分も抜ける頃、早くもチラシで一杯のポストを開けてビックリ、「うっそ～！え～！ほんと～！」（中学時代の娘の奇声が解る心境） ガクッ！ 切手貼り忘れなど微塵の意識さえないのが恐ろしい。脚だの腰だのと言う以前に頭の方を心配すべき事態である。慌てて Web メールに変えたがアドレスが変更されたのか多くが未配になってしまった。もしかすると「アイツがねえ～、元気そうだったけど・・・、」斯くして私は天国に、勿論善人として・・・、そんな訳ないか、どう見ても世に憚る方だから。

リタイアした頃の年賀挨拶にこんなものがあった。「減退したもの、知力・財力は言うに及ばず気力・体力、増加したもの、暇と時間」云々・・・。昨今、前者は確かに顕著であるが後者はまるで逆、1日の終わるのが、いや1年が早いこと、要はやること為すこと全てに鈍くなったということとみた。

それにしてもこのコロナ情勢、何とか収まらないとこんな惚けが益々増長しそうです。

なごやめし

多摩・田園 渡辺 泰之

私は愛知県一宮市出身です。有名人は非常に少なく、歌手・舟木一夫と先日亡くなられた元総理大臣・海部俊樹（出身は名古屋ですが、選挙地盤が一宮市）です。

「なごやめし」を皆さんに知って頂きたくご紹介いたします。「なごやめし」は名古屋及びその近郊で広く食されている地域独特のメニューです。皆さんがよく知っているのはきしめん、味噌カツ、エビフライ、手羽先、ひつまぶし等があげられます。最近ではテレビなどで取り上げられる台湾ラーメン、あんかけスパが若者たちには人気となっています。しかしながら寒い冬には私は何と言っても味噌煮込みうどんです。熱々の土鍋の中に赤味噌仕立ての汁と少し固めのうどんが入っています。その上に生卵が載せてあり絶品です。熱々のうどんを土鍋の蓋に載せて食べます。コロナウイルスが下火になりましたら、名古屋に行き是非食してください。お勧めは山本総本家か山本屋本店です。どちらも名古屋駅近くにありますので是非行ってみてください。なお、どちらも東京には進出しておりません。東京でどうしても食べたいと思われる方は八重洲にある玉丁本店に行ってみてください。美味しいですよ。是非ご賞味ください。

「なごやめし」には他にもたくさん美味しい食べ物があります。機会がありましたらまた紹介させていただきます。